8. まとめと課題

8.1 調査結果の整理

(1) 緑被調査

区全体の緑被地面積は 751.26ha、緑被率は 18.71%であった。前回（平成 24 年度）調査結果との比較では、緑被地面積は 45.91ha、緑被率は 1.23 ポイントの減少であった。樹林と草地は減少となっていたが、屋上緑化は増加していた。

緑化指導により都市構造が成熟した内陸部で屋上緑化が進んだ一方で、未利用地が多く残る臨海部で開発による樹林、草地の消失があった。

(2) 屋上緑化調査

区全体の屋上緑化は 3,145 箇所で、31.42ha であった。前回（平成 24 年度）調査結果との比較では 635 箇所、2.67ha の増加であった。屋上緑化面積は、緑被地全体の 4.1%ではあるが、着実に増加していることから緑化指導による効果があったと考えられる。

深川地域、城東地域に小規模な面積の屋上緑化が、南部地域に大規模な面積の屋上緑化の分布傾向がみられた。今後も開発が進むと南部地域を中心に増加が期待される。

(3) 樹林調査

面積 100 ㎡以上の樹木のまとまりを樹林地として抽出した結果、区全体の樹林地は 2,287 箇所、297.74ha であった。樹木面積 436.88ha のうち、約 68%が樹林であった。前回（平成 24 年度）調査結果との比較では、120 箇所、0.76ha の増加となっていたが、今回は樹高 1.5m未満も含めた値であるため、前回と条件が異なることによる影響もあると考えられる。

江東区の樹林地は公園・運動場を中心に分布しており、5,000 ㎡以上の大規模な樹林地が全体の約 51%を占めていた。

(4) みどり率調査

みどり率とは、公園面積に公園以外の緑被地面積と河川等の水面面積を加えたものをみどり面積として、行政界などの区域に対するみどり面積の割合のことを示す。

区全体のみどり面積は 1,443.56ha、みどり率は 35.95%であった。緑被地面積と比較すると 692.30ha、緑被率より 17.24 ポイント高くなっていた。これは区内に都立公園、区立公園、海浜公園などの大規模な公園が多数位置し、河川や運河等の水面の占める面積が大きいことによる。

前回（平成 24 年度）調査結果との比較では、みどり面積が 12.06ha、0.45 ポイントの減少となっていた。前回から区内に 5 箇所の公園が増えたことにより公園面積は増加した一方で、南部地域における未利用地の開発により公園以外の樹木、草地が大きく減少していたためであった。

(5) 公共施設緑被調査

区が管理している公共施設の緑被地面積は 109.57ha、緑被率は 45.06%であった。

施設別では、区立小学校の緑被率は 16.00%で前回から 0.16 ポイント増加、区立中学校の緑被率は 11.80%で前回より 0.81 ポイントの減少であった。その他については、前回（平成 24 年度）調査から施設区分を変更したことにより単純に比較はできないが、地域振興施設が 45.55 ポイント、庁舎等が 7.60 ポイント、幼稚園が 3.86 ポイントと全体的に増加していた。

8.2　江東区におけるみどりの課題

緑被等の調査結果と関連する計画の内容を踏まえて、江東区が抱えるみどりの課題について整理した。

8.2.1　各計画とみどりに関連する目標や施策

区の行政計画に記載されている「区内のみどり」に関する目標や方針を表 8-1 のとおり整理した。計画に共通する目標や指標、方針として、主として以下のものが設定されている。

・区内の緑化推進（公共施設、公園、屋上/壁面、宅地など）
・緑被率

表 8-1　　各計画における「区内のみどり」に関する目標・方針等

計画	策定年	目標・施策等	
江東区長期計画（後期）	平成 27 年 3 月	【施策の大綱】 水と緑豊かな地球環境にやさしいまち 【基本施策】 水辺と緑に彩られた魅力あるまちの形成 （施策２）身近な緑の育成	
		指標等	目標値
		指標７　緑被率	22%（平成 31 年度）
		指標８　区立施設における新たな緑化面積	－（平成 31 年度）
		指標９　街路樹本数	18,000 本（平成 31 年度）
		指標１０　区民・事業者による新たな緑化面積	－（平成 31 年度）
江東区　みどりと自然の基本計画［緑の基本計画］	平成 19 年 7 月	【計画の目標】 ①みどりの豊さや都市環境の向上に寄与する緑の”量”を確保するための『緑被率』 ②環境・レクリエーション・防災・景観と多様な機能を有し、生活にうるおいと安心、安らぎを与えるみどりの”量”を確保するための『都市公園の整備量』	
		指標等	目標値
		緑被率	約 3 割以上の増加（緑被率約 22%）（平成 37 年）
		都市公園の整備量	約 1 割以上の増加（都市公園面積　約 420ha）（平成 37 年）
江東区 CIG ビジョン	平成 24 年 7 月	Ⅳ　江東区 CIG ビジョンの実現に向けて １．【まちづくり】緑の施策の強化により「緑の中の都市」が実現しています。	
		指標等	目標値
		緑被率	22%（平成 31 年）
		緑視率	22%（平成 31 年）
江東区オリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画	平成 27 年 6 月	江東区エリアの 10 の視点とその方針 視点２．みどり　CIG を先導するまち 方針１　江東湾岸エリア内のみどりのネットワークの強化を行います。 【江東湾岸エリア全体の実施案】開発等における屋上/壁面緑化の推進 方針２　人々がふれあえることの出来る大規模な緑地空間を創出します。 【江東湾岸エリア全体の実施案】競技施設の緑化推進、大規模宅地の緑化推進	
豊洲グリーンエコアイランド構想	平成 25 年 10 月	６つの視点と防災 視点１　緑環境　緑あふれ人とふれあう緑環境の実現 方針２　宅地の緑化を推進し、110ha の『緑のまち』をつくります 施策方針　１）宅地の緑化を推進し、緑の骨格とともに厚みと広がりのある緑を創出します	

8.2.2　緑の基本計画の達成状況等の整理

みどりの課題の整理を行うにあたり、「みどりと自然の基本計画[緑の基本計画]」で計画の目標として位置づけられている「緑被率」について、区全体及び地区別の状況を整理した。

(1)　区全体

緑被率は、計画当初の 16.68%、中間年次の 19%、目標年次の 22%に対して、今年度の調査の結果は 18.71%であり、前回調査時（平成 24 年）よりは 1.23 ポイント低下したものの、緑被率と緑被地面積ともに中間年次の目標値とほぼ同程度であった。

表 8-2　緑被率の目標値

	現況（計画時） 平成 17 年（2005 年）	中間年次 平成 27 年（2015 年）	目標年次 平成 37 年（2025 年）
緑被率	16.68 %	19 %	22 %
緑被地面積	658.37 ha	750 ha	896 ha
現況からの増加面積	－	92 ha	210 ha

出典：「江東区　みどりと自然の基本計画[緑の基本計画]」（平成 19 年 7 月、江東区）

表 8-3　緑被率の推移

	現況(計画時)※ 平成 17 年（2005 年）	前回調査 平成 24 年（2012 年）	今回調査 平成 29 年（2017 年）
緑被率	16.68 %	19.93 %	18.71 %
緑被地面積	658.37 ha	797.17 ha	751.26 ha
現況からの増加面積	－	138.8 ha	92.89 ha

※計画時の緑被率は緑被地の最小単位を 10㎡とした場合の集計結果である。

出典：「江東区　みどりと自然の基本計画[緑の基本計画]」（平成 19 年 7 月、江東区）
「江東区緑被等調査報告書」（平成 25 年 3 月、江東区）

(2)　地区別

「みどりと自然の基本計画」で示された地区別の緑被の推移は表 8-4 に示すとおりである。（表 3-7　「みどりと自然の基本計画」における地区別の緑被地等の状況　参照）

地区別の緑被の推移は、集計の最小単位が異なる平成 17 年度と、平成 24 年度及び平成 29 年度で単純な比較はできないものの、平成 17 年度と比較して、「南砂地区」を除くすべての地区で緑被地面積が増加している傾向が伺える。

ただし、「富岡地区」、「東陽地区」、「豊洲地区」、「南砂地区」の 4 地区では、平成 29 年度は平成 24 年度と比較して緑被地面積が減少しており、特に臨海部を多く含む「豊洲地区」と「南砂地区」での減少量が多かった。

表 8-4（1）　地区別の緑被地の推移

地区名	平成 17 年度		平成 24 年度		平成 29 年度	
	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
小松橋	21.68	13.14	26.86	16.28	26.96	16.34
白河	19.90	9.71	26.36	12.86	26.56	12.95
富岡	24.92	11.43	32.18	14.76	31.59	14.49
東陽	28.57	14.88	37.53	19.55	36.42	18.97
豊洲	199.55	14.89	277.23	20.69	244.53	18.25
亀戸	29.17	11.58	36.32	14.41	36.77	14.59
大島	27.69	12.2	33.88	14.93	34.93	15.39
砂町	36.96	12.75	46.07	15.89	46.66	16.09
南砂	269.93	25.49	279.01	26.35	265.20	25.04
区全体	658.37	16.68	797.17	19.93	751.26	18.71

※注釈は表 8-4（2）と同じ。

表 8-4（2）　地区別の緑被地の推移（増減）

地区名	平成 17 年度と平成 24 年度の増減		平成 24 年度と平成 29 年度の増減		平成 17 年度と平成 29 年度の増減	
	緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポイント)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポイント)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポイント)
小松橋	5.18	3.14	0.09	0.06	5.28	3.20
白河	6.46	3.15	0.20	0.10	6.66	3.24
富岡	7.26	3.33	▲ 0.59	▲ 0.27	6.67	3.06
東陽	8.96	4.67	▲ 1.12	▲ 0.58	7.85	4.09
豊洲	77.68	5.80	▲ 32.71	▲ 2.44	44.98	3.36
亀戸	7.15	2.83	0.45	0.18	7.60	3.01
大島	6.19	2.73	1.04	0.46	7.24	3.19
砂町	9.11	3.14	0.59	0.20	9.70	3.34
南砂	9.08	0.86	▲ 13.82	▲ 1.30	▲ 4.73	▲ 0.45
区全体	138.80	3.26	▲ 45.91	▲ 1.23	92.89	2.03

表中の▲は、値としてマイナスであることを示す。

※1 集計に用いた地区面積の関係上、各地区の合計値と「区全体」の値は一致しない。

※2 平成 17 年度の緑被面積および緑被率は緑被地の最小面積を 10㎡として集計したものであり、最小面積 1㎡として集計を行った平成 24 年度および平成 29 年度と単純に比較できない。なお、平成 24 年度の緑被面積及び緑被率は、今回の調査で最小面積を 1㎡として地区別に再集計を行ったものである。

※3 表 8-4 中の地区名は、「みどりと自然の基本計画」の「6. 地区別にみる取り組み方針」の以下の地区におおよそ該当する。表内の色分けは以下の地区分けに対応している。

地区名（表 8-4 の区分）	地区区分名（みどりと自然の基本計画の地区区分）
小松橋地区、白河地区	6-2. 小松橋・白河地区
富岡地区、東陽地区	6-3. 富岡・東陽地区
豊洲地区	6-4. 豊洲地区 6-7. 臨海地区
亀戸地区、大島地区	6-5. 亀戸・大島地区
砂町地区、南砂地区	6-6. 砂町地区 6-8. 新木場・若洲地区

※4 各地区の位置は「図 3-10　地域・地区区分（みどりと自然の基本計画）」を参照。

なお、「みどりと自然の基本計画」の「6.地区別にみる取り組み方針」で示された地区区分ごとに再集計を行った結果、表 8-5 の通りであった。平成 17 年度と比較した場合、全ての地区区分で緑被地面積及び緑被率が増加している傾向が伺える。

ただし、「豊洲地区、臨海地区」及び「砂町地区、新木場・若洲地区」の 2 地区区分では、平成 24 年度と比較して緑被地面積が減少しており、特に「豊洲地区、臨海地区」での減少量が多い。また、「砂町地区、新木場・若洲地区」は、緑被地面積及び緑被率は区内で最も高い一方で、計画当初からの増加率は最も小さいことが分かる。

表 8-5（1）　地区区分別の緑被地の推移

地区区分名	平成 17 年度		平成 24 年度		平成 29 年度	
	面積（ha）	率（%）	面積（ha）	率（%）	面積（ha）	率（%）
小松橋・白河地区	41.58	11.24	53.23	14.39	53.51	14.46
富岡・東陽地区	53.49	13.05	69.71	17.00	68.01	16.59
豊洲地区 臨海地区	199.55	14.89	277.23	20.69	244.53	18.25
亀戸・大島地区	56.86	11.87	70.20	14.66	71.69	14.97
砂町地区 新木場・若洲地区	306.89	22.75	325.09	24.10	311.86	23.12
区全体	658.37	16.68	797.17	19.93	751.26	18.71

※注釈は表 8-5（2）と同じ。

表 8-5（2）　地区区分別の緑被地の推移（増減）

地区区分名	平成 17 年度と 平成 24 年度の増減		平成 24 年度と 平成 29 年度の増減		平成 17 年度と 平成 29 年度の増減	
	面積（ha）	率（%）	面積（ha）	率（%）	面積（ha）	率（%）
小松橋・白河地区	9.41	2.54	2.52	0.68	11.93	3.22
富岡・東陽地区	14.12	3.45	0.40	0.09	14.52	3.54
豊洲地区 臨海地区	73.44	4.74	▲ 28.46	▲ 1.38	44.98	3.36
亀戸・大島地区	10.22	2.13	4.61	0.96	14.83	3.09
砂町地区 新木場・若洲地区	14.07	1.04	▲ 9.10	▲ 0.67	4.97	0.37
区全体	138.80	3.26	▲ 45.91	▲ 1.23	92.89	2.03

表中の▲は、値としてマイナスであることを示す。

※1 集計に用いた地区面積の関係上、各地区の合計値と「区全体」の値は一致しない。

※2 平成 17 年度の緑被面積および緑被率は緑被地の最小面積を 10㎡として集計したものであり、最小面積 1㎡として集計を行った平成 24 年度および平成 29 年度と単純に比較できない。なお、平成 24 年度の緑被面積及び緑被率は、今回の調査で最小面積を 1㎡として地区別に再集計を行ったものである。

※3 表 8-5 中の地区名は、「みどりと自然の基本計画」の「6.地区別にみる取り組み方針」の地区区分におおよそ該当する（表 8-4（2）※3 参照）。

※4 各地区の位置は「図 3-10　地域・地区区分（みどりと自然の基本計画）」を参照。

更に、地区区分別に緑被地面積及び割合を項目ごとに比較した結果を表 8-6 に示す。各地区ともに、緑被率の最も大きな増加要因として樹木の増加が挙げられる。

また、屋上緑化の面積の絶対値が大きい地区は「豊洲地区、臨海地区」や「砂町、新木場・若洲地区」など、臨海部に位置する地区であった。

一方で、区北部に位置する「小松橋・白河地区」、「富岡・東陽地区」、「亀戸・大島地区」の３地区区分を比較すると、相対的に「小松橋・白河地区」の緑被の増加率が低い傾向が見られた。

表 8-6（1）　地区区分別の緑被地（項目別）の推移

地区区分名	項目		平成 17 年度		平成 24 年度		平成 29 年度	
			面積 [ha]	割合 [%]	面積 [ha]	割合 [%]	面積 [ha]	割合 [%]
小松橋・白河地区	緑被地	樹木	36.37	9.83	45.01	12.17	45.08	12.18
		草地	5.11	1.38	6.42	1.73	6.44	1.74
		屋上緑化樹木	0.07	0.02	0.92	0.25	0.93	0.25
		屋上緑化草地	0.04	0.01	0.88	0.24	1.06	0.29
		合計※	41.59	11.24	53.23	14.39	53.51	14.46
富岡・東陽地区	緑被地	樹木	41.70	10.17	54.82	13.37	50.14	12.23
		草地	11.52	2.81	12.42	3.03	14.29	3.48
		屋上緑化樹木	0.21	0.05	1.00	0.25	0.92	0.22
		屋上緑化草地	0.04	0.01	1.47	0.36	2.67	0.65
		合計※	53.51	13.05	69.71	17.00	68.01	16.59
豊洲地区 臨海地区	緑被地	樹木	108.32	8.08	140.10	10.46	138.22	10.31
		草地	91.08	6.80	126.04	9.41	93.25	6.96
		屋上緑化樹木	0.07	0.01	3.48	0.26	2.98	0.22
		屋上緑化草地	0.07	0.00	7.61	0.57	10.08	0.75
		合計※	199.53	14.89	277.23	20.69	244.53	18.25
亀戸・大島地区	緑被地	樹木	41.29	8.62	50.99	10.64	50.33	10.51
		草地	15.47	3.23	15.45	3.23	17.11	3.57
		屋上緑化樹木	0.05	0.01	1.08	0.23	0.92	0.19
		屋上緑化草地	0.10	0.02	2.68	0.56	3.33	0.70
		合計※	56.86	11.87	70.20	14.66	71.69	14.97
砂町地区 新木場・若洲地区	緑被地	樹木	151.09	11.20	162.52	12.05	151.71	11.25
		草地	153.61	11.39	155.09	11.50	151.61	11.24
		屋上緑化樹木	0.31	0.02	2.10	0.16	2.13	0.16
		屋上緑化草地	1.92	0.14	5.37	0.40	6.40	0.47
		合計※	306.93	22.75	325.09	24.10	311.86	23.12
地区全体	緑被地	樹木	378.74	9.59	454.78	11.37	436.88	10.88
		草地	276.81	7.01	315.78	7.90	282.96	7.05
		屋上緑化樹木	0.66	0.02	8.60	0.22	7.88	0.20
		屋上緑化草地	2.15	0.05	18.01	0.45	23.54	0.59
		合計※	658.37	16.68	797.17	19.93	751.26	18.71

※1 集計に用いた地区面積の関係上、各地区の合計値と「区全体」の値は一致しない。

※2 平成 17 年度の緑被面積及び緑被率は緑被地の最小面積を 10㎡として集計したものであり、最小面積 1㎡として集計を行った平成 24 年度及び平成 29 年度と単純に比較できない。なお、平成 24 年度の緑被面積及び緑被率は、今回の調査で最小面積を 1㎡として地区別に再集計を行ったものである。（以下、同様）。

※3 表 8-6 中の地区名は、「みどりと自然の基本計画」の「6. 地区別にみる取り組み方針」の地区区分におおよそ該当する（表 8-4（2）※3 参照）。

※4 各地区の位置は「図 3-10　地域・地区区分（みどりと自然の基本計画）」を参照。

表 8-6（2）　地区区分別の緑被地（項目別）の推移（増減）

地区区分名	項目		平成 17 年度と平成 24 年度の増減		平成 24 年度と平成 29 年度の増減		平成 17 年度と平成 29 年度の増減	
			面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
小松橋・白河地区	緑被地	樹木	8.64	2.34	0.07	0.02	8.71	2.35
		草地	1.31	0.35	0.02	0.01	1.33	0.36
		屋上緑化樹木	0.85	0.23	0.01	0.00	0.86	0.23
		屋上緑化草地	0.84	0.23	0.18	0.05	1.02	0.28
		合計※	11.64	3.15	0.29	0.08	11.92	3.22
富岡・東陽地区	緑被地	樹木	13.12	3.20	▲ 4.68	▲ 1.14	8.44	2.06
		草地	0.90	0.22	1.86	0.45	2.77	0.67
		屋上緑化樹木	0.79	0.20	▲ 0.09	▲ 0.02	0.71	0.17
		屋上緑化草地	1.43	0.35	1.20	0.29	2.63	0.64
		合計※	16.20	3.95	▲ 1.71	▲ 0.42	14.50	3.54
豊洲地区 臨海地区	緑被地	樹木	31.78	2.38	▲ 1.88	▲ 0.14	29.90	2.23
		草地	34.96	2.61	▲ 32.79	▲ 2.45	2.17	0.16
		屋上緑化樹木	3.41	0.25	▲ 0.50	▲ 0.04	2.91	0.21
		屋上緑化草地	7.54	0.57	2.47	0.18	10.01	0.75
		合計※	77.70	5.80	▲ 32.71	▲ 2.44	45.00	3.36
亀戸・大島地区	緑被地	樹木	9.70	2.02	▲ 0.65	▲ 0.14	9.04	1.89
		草地	▲ 0.02	0.00	1.66	0.35	1.64	0.34
		屋上緑化樹木	1.03	0.22	▲ 0.16	▲ 0.03	0.87	0.18
		屋上緑化草地	2.58	0.54	0.65	0.14	3.23	0.68
		合計※	13.34	2.79	1.49	0.31	14.83	3.10
砂町地区 新木場・若洲地区	緑被地	樹木	11.43	0.85	▲ 10.82	▲ 0.80	0.62	0.05
		草地	1.48	0.11	▲ 3.48	▲ 0.26	▲ 2.00	▲ 0.15
		屋上緑化樹木	1.79	0.14	0.03	0.00	1.82	0.14
		屋上緑化草地	3.45	0.26	1.03	0.08	4.48	0.33
		合計※	18.16	1.35	▲ 13.23	▲ 0.98	4.93	0.37
地区全体	緑被地	樹木	76.04	1.78	▲ 17.90	▲ 0.49	58.27	1.29
		草地	38.97	0.89	▲ 32.82	▲ 0.85	6.21	0.04
		屋上緑化樹木	7.94	0.20	▲ 0.72	▲ 0.02	7.09	0.18
		屋上緑化草地	15.86	0.40	5.53	0.14	21.57	0.54
		合計※	138.80	3.26	▲ 45.91	▲ 1.23	92.73	2.03

表中の▲は、値としてマイナスであることを示す。

※1 集計に用いた地区面積の関係上、各地区の合計値と「区全体」の値は一致しない。

※2 平成 17 年度の緑被面積及び緑被率は緑被地の最小面積を 10㎡として集計したものであり、最小面積 1㎡として集計を行った平成 24 年度及び平成 29 年度と単純に比較できない。なお、平成 24 年度の緑被面積及び緑被率は、今回の調査で最小面積を 1㎡として地区別に再集計を行ったものである。（以下、同様）。

※3 表 8-6 中の地区名は、「みどりと自然の基本計画」の「6. 地区別にみる取り組み方針」の地区区分におおよそ該当する（表 8-4（2）※3 参照）。

※4 各地区の位置は「図 3-10　地域・地区区分（みどりと自然の基本計画）」を参照。

8.2.3　みどりの課題について

緑被調査の結果を踏まえて、「みどりと自然の基本計画」で示された地区区分毎の現状を整理した結果、すべての地区区分及び緑被項目において、計画当初と比較した場合、緑被面積及び緑被率が増加している傾向が認められた。これは、「江東区みどりの条例」や各種関連計画に基づいて行われている施策や緑化指導の取り組みが、計画期間内に一定の効果を上げていることを示しているものと考えられる。

一方で、直近の５年間では、計画の中間年次目標は達成しているものの、南部の大規模開発に伴う緑被地面積の減少などによって、区全体では緑被地面積及び緑被率の増加割合が鈍っている傾向も認められた。

しかし、有明周辺等における低未利用地での大規模な開発に伴う緑化指導により植栽された緑が今後生長していくとともに、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会競技施設に対し確実な緑の量が確保されるような緑化指導をしているため、緑が増加していくと考えられる。低未利用地の草地は、建築計画に伴う緑化指導等により樹木等による質の高い緑地へと転換されており、今後良好な緑の環境が形成されていくと考えられる。

南部の低未利用地等において開発が引き続き行われていく中で、緑被率の計画目標達成のための取り組みを進める上では、これまでと同様に緑化指導等によって「みどりを増やす」という観点に加えて、開発・整備や土地利用転換の際に「みどりを維持する」という観点の施策に重点的に取り組む必要があると考えられる。

地区ごとに緑被の状況や開発の状況が異なることから、表 8-7 に示すとおり、地区区分ごとに想定されるみどりの課題について整理を行った。

表 8-7（1）　小松橋・白河地区の特徴と主な課題

地区区分名	方針と主な課題	
小松橋・白河地区	地区の特徴	・土地利用割合は住宅系が最大 ・隅田川に隣接し、地区内に河川が流れ、水辺との関わりが深い
	緑被の特徴	・計画当初から地区区分内で最も緑被率が低い ・屋上緑化の割合も区内で最も低い ・区北部に位置する「小松橋・白河」、「富岡・東陽」、「亀戸・大島」の３地区区分のなかでは、最も屋上緑化の割合が低い ・近年の緑被地面積の向上は集合住宅の立地に伴う緑地整備によるところが大きい ・屋上緑化は住宅系建物の屋上の小規模なものが多い
	想定される主な課題	市街地は安定している一方で、建物が密集していることにより、緑化の余地が少ないことが想定される。庭先や既存施設周辺の緑化や、街路樹や公園等の既存の緑地の適切な維持管理等によって、みどりの増加と維持の取り組みを進めることが課題と考えられる。 【みどりを増やすための課題】 ・散策路、街路樹のネットワーク性の向上 ・公共施設の積極的な緑化 ・民有地の緑化啓蒙活動の推進（生垣、庭先緑化） 【みどりを維持するための課題】 ・大規模公園（木場公園、猿江恩賜公園、清澄庭園　等）の維持管理 ・風の道、散策路、街路樹の維持管理 ・社寺林の保全

表 8-7（2）　富岡・東陽地区の特徴と主な課題

地区区分名	方針と主な課題	
富岡・東陽地区	地区の特徴	・土地利用割合は住宅系が最大 ・地区内に河川が流れ、水辺との関わりが深い
	緑被の特徴	・区北部に位置する「小松橋・白河」、「富岡・東陽」、「亀戸・大島」の３地区区分のなかでは、計画当初から最も緑被率が高い。 ・平成 24 年度からの樹木の減少が地区区分内で２番目に大きく、小規模な建物の立地や街路樹の伐採、剪定によるものと考えらえる。 ・倉庫施設の建替による屋上緑化や都立高校の校庭の芝生化による緑被の増加が見られた。 ・屋上緑化は住宅系建物の屋上の小規模なものが多い
	想定される主な課題	市街地は安定している一方で、建物が密集していることにより、緑化の余地が少ないことが想定される。庭先や既存施設周辺の緑化や、街路樹や公園等の既存の緑地の適切な維持管理等によって、みどりの増加と維持の取り組みを進めることが課題と考えられる。 【みどりを増やすための課題】 ・公園、水辺の散策路、街路樹のネットワーク性の向上 ・公共施設の緑化や街路樹の植栽の推進（内陸部で最も高い緑被率の維持） 【みどりを維持するための課題】 ・大規模公園（木場公園）の維持管理 ・風の道、散策路、街路樹の維持管理 ・門前町のみどりの保全 ・地区内の大規模団地内の緑化空間の維持管理

表 8-7（3）　豊洲地区、臨海地区の特徴と主な課題

地区区分名	方針と主な課題	
豊洲地区 臨海地区	地区の特徴	【豊洲地区】 ・土地利用転換に伴う再開発によって確保された公園・緑地や街路樹などの公共空間の緑化が行われている ・超高層住宅が立地する住宅地として開発が進んでいる ・土地利用割合は工業系が最大 【臨海地区】 ・大規模な公共施設や商業業務施設が多い ・土地利用割合は空地や商業施設が多い
	緑被の特徴	・未利用地内に比較的大きな樹木、草地が存在することで、緑被率は「砂町、新木場・若洲」地区に次いで区内で２番目に高い ・区北部の 3 地区と比較すると、草地の割合が高い ・平成 24 年度以降、辰巳の森海浜公園や有明周辺の未利用地での大規模な工事に伴って緑被面積及び緑被率が大きく減少した。 ・有明や青海に存在する運輸・物流施設や未利用地に草地が多く存在する。 ・豊洲市場の完成に伴う豊洲周辺の緑地環境整備が進んだ。 ・屋上緑化は商業施設、倉庫運輸関連施設など、大規模な施設の屋上に多くみられる。
	想定される主な課題	未利用地内に樹木や草地が存在していることで緑被率は高いが、それらが開発に伴って消失することで、地区区分内での緑被面積や緑被率が大きく変動し、区全体の緑被率に影響を及ぼすことが考えられる。特に、有明一丁目、辰巳二丁目、豊洲二丁目、青海二丁目、有明二丁目は緑被の減少が大きく、今後も開発は続くことから、緑化指導などにより、緑被地面積を可能な限り維持することが課題と考えられる。 【みどりを増やすための課題】 ・居住地からみどりの拠点までのネットワークの形成 ・住宅団地内の植栽や街路樹の、区民との連携による増加 ・住宅団地の建て替え更新に伴う緑被の増加 【みどりを維持するための課題】 ・住宅団地内の植栽や街路樹の、区民との連携による維持 ・大街区開発に伴う緑地の担保 ・住宅団地の建て替え更新に伴う緑被の維持

表 8-7（4）　亀戸・大島地区の特徴と主な課題

地区区分名	方針と主な課題	
亀戸・大島地区	地区の特徴	・土地利用割合は住宅系が最大 ・亀戸地区北側には社寺が集積している ・亀戸・大島・小松川地区では大規模な市街地再開発事業が行われている ・大島地区内には大規模な公的住宅団地がある
	緑被の特徴	・緑被率は区内で「小松橋・白河地区」に次いで下から２番目に低い ・平成 24 年度以降、樹木と屋上緑化樹木が減少している ・屋上緑化は住宅系建物の屋上の小規模なものが多い
	想定される主な課題	市街地は安定している一方で、建物が密集していることにより、緑化の余地が少ないことが想定される。庭先や既存施設周辺の緑化や、街路樹や公園等の既存の緑地の適切な維持管理等によって、みどりの増加と維持の取り組みを進めることが課題と考えられる。 【みどりを増やすための課題】 ・散策路、街路樹のネットワーク性の向上 ・公共施設の積極的な緑化 ・まとまった緑が無い町丁目での庭先緑化や生垣設置（身近な緑の育成） 【みどりを維持する課題】 ・風の道（横十間川、明治通り、丸八通り　等）の維持管理 ・大規模公園（亀戸中央公園、大島小松川中央公園　等）の樹木の良好な生育環境の確保 ・大規模な公園や公的住宅団地の緑や社寺林の維持・保全 ・みどりのネットワークの適切な維持管理

表 8-7（5）　砂町地区、新木場・若洲地区の特徴と主な課題

地区区分名	方針と主な課題	
砂町地区 新木場・若洲地区	地区の特徴	【砂町地区】 ・人口及び人口密度が地区区分の中で最も高い ・大規模な公的住宅団地が多く存在している。 ・工場や倉庫等の土地利用転換によって民間マンションが多く建設 ・土地利用割合は住宅系が最大 【新木場・若洲地区】 ・土地利用割合は空地や工業計が多い ・水処理センターや倉庫・流通施設などの大規模施設が多く存在
	緑被の特徴	・大規模敷地周辺の緑化が進められており、緑被地面積及び緑被率は地区区分内で最大 ・地区区分内で草地の割合が最も高い ・一方で、計画当初からの緑被地の増加面積は地区区分内で最も少ない ・平成 24 年度以降、夢の島公園内の工事や新砂三丁目の大規模な物流・供給施設の立地等によって樹木及び草地が減少し、緑被地面積及び緑被率が大きく減少した。 ・新木場などに存在する運輸・物流施設や未利用地に草地が多く存在する。 ・屋上緑化は商業施設、倉庫運輸関連施設など、大規模な施設の屋上に多くみられる。
	想定される主な課題	未利用地内に樹木や草地が存在していることで緑被率は高いが、それらが開発に伴って消失することで、地区区分内での緑被面積や緑被率が大きく変動し、区全体の緑被率に影響を及ぼすことが考えられる。特に、夢の島一丁目、夢の島二丁目、新木場三丁目、木場五丁目は緑被の減少が大きく、今後も開発は続くことから、緑化指導などにより、緑被地面積を可能な限り維持することが課題と考えられる。 【みどりを増やすための課題】 ・住宅団地内の植栽や街路樹の区民との連携による増加 ・住宅団地の建替更新に伴う緑被の増加 【みどりを維持するための課題】 ・水辺のネットワークや既存の緑地の適切な維持 ・住宅団地内の植栽や街路樹の区民との連携による維持 ・まとまった緑地である団地内のオープンスペースの建替時の確保 ・大街区開発に伴う緑地の担保